研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成27年９月24日発行　　No.68

平成27年度　外国語活動・外国語研修会

平成27年７月28日（火）実施

概要　小学校外国語活動のさらなる推進をめざし，学校が組織として取り組むとともに，指導内容や指導方法について研修を深め，授業実践力を高める。さらに，中学校英語教育への円滑な移行や連携の在り方について学ぶ。

【実践発表】「小学校外国語科活動を充実するために ～コア・スクール実践研究指定事業の取組から～」

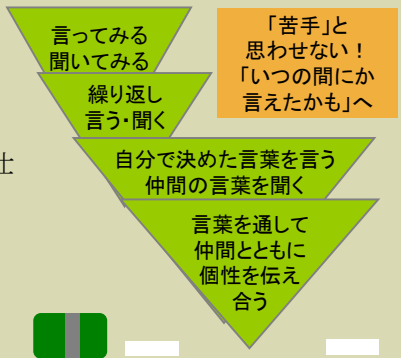
実践発表者：横浜新町小学校　佃　　典高　教諭　・横浜中学校　上田　　知加　教諭

- コアスクールとしての取組
  - ①　外国語活動の授業実践と研究
  - ②　組織的な取組

児童の個性(オリジナリティ)を大切にした授業づくりができるのは，児童のことを一番知っている学級担任！

- 外国語活動の授業について大切だと考えていること
- 授業づくりのポイント
  - ①　めざす児童の姿をイメージして，単元のゴールの活動をどう設定するか考える
  - ②　最後の活動につながるようにスムーズなステップをふませる
  - ③　児童が自然に「○○したい」と思える活動になるようにする
  - ④　児童それぞれの個性（オリジナリティ）を伝え合える活動を仕組む
  - ⑤　児童同士，指導者から児童への中間評価や振り返りをする

スムーズなステップのイメージ



- 中学校の英語教育とのつながり
- （コア・スクールとして）今後，外国語活動を充実するために

【講話】「小･中･高を通じたこれからの外国語活動について　～次期学習指導要領の改訂をふまえて～」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課　直山　木綿子　教科調査官

「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告

【小学校高学年教科としての目標イメージ】

① 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを**理解できるようにする。**

② 身近で簡単なことについて，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことが**できるようにする。**

中学校英語の前倒しではない

③ アルファベットや単語に慣れ親しみ，英語を読むことに対する**興味を育てる。**

④ アルファベットを書くことに慣れ親しみ，英語を書くことに対する**興味を育てる。**

【中学校外国語科目標イメージ】

現行　外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

目標イメージ　外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに，身近な話題についての理解や表現，簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

このように，授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から，現在，高等学校では，授業を英語で行うことを基本としているところであり，**中学校と高等学校の学びを円滑につなげる観点**から，中学校においても，**授業を英語で行うことを基本**とすることが適当である。

その際，中・高等学校とも，その趣旨が**「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため」**であり，**「生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮すること」**を前提としていることを十分に理解することが重要である。

【演習】「付けたい力を明確にした小学校外国語活動の授業づくり ～『目標と指導と評価の一体化』の観点から～」

中学校区を基本とするグループごとに，「目標と指導と評価の一体化」の観点から外国語活動の授業づくりについて考え，単元計画（単元の目標・評価規準等）及び単元のゴールの活動を作成する。

意見交流 → グループワーク → ペアでシェアリング → 全体でシェアリング

成果物　単元計画及び単元のゴールの活動を考える

単元名（オリジナル）	「行ってみたい国を紹介しよう」 関連：Hi, friends! 2　Lesson 5　“Let’s go to Italy”
単元目標	・　自分の思いがはっきり伝わるように，行ってみたい国について発表したり，友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。 ・　行きたい国について尋ねたり，言ったりする表現に慣れ親しむ。 ・　世界にはさまざまな人たちが，さまざまな生活をしていることに気付く。
単元評価規準 （めざす児童像）	・　自分の思いがはっきり伝わるように工夫して，行ってみたい国について発表したり聞いたりしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・　行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しんでいる。【外国語への慣れ親しみ】 ・　世界にはさまざまな人たちが，さまざまな生活をしていることに気付いている。【言語や文化に対する気付き】

単元ゴール：自分が行ってみたい国を紹介する

【活動のイメージ】
発表者：（ヒントの絵や単語が描かれている用紙を見せながらクイズを出す）I want to eat pizza. I like soccer.　I want to eat cheese.　What country is it?
友だち：France?　Egypt?　Where do you want to go?
発表者：（ヒント用紙を広げると国旗になるしかけ）I want to go to 国名.　Let’s go to 国名!
友だち：Let’s go!

【直山　教科調査官によるまとめ】

- **小・中学校の教員が一緒にグループワークを行うことで学び合ったことが成果である**
  - 小学校教員は中学校教員の英語力に触れることができた
  - 中学校教員は小学校教員のアイデア力に触れることができた
- **学習指導案を作成する時に，同じ単元を題材として選んでも，グループによって内容が異なっている**
  - 担任が，子どもにどのような力を付けたいと考えているのかで，どんな活動を仕組むのかが異なってくる
- **小学校外国語活動における文字の掲示について**
  - 掲示する位置や配色，縦向け・横向けなどに配慮して，意図をもって掲示する
  - 中学校教員と相談して，掲示の仕方等をそろえておくことが小中連携につながる

【受講者の感想】
- 一つの単元だけを見ても教師の指導方法によって，授業の内容や子どもの興味・関心を引く場面が全く異なっていくことが分かった。だからこそ，児童の実態に合わせた工夫が必要だと思った。
- グループワークを通して，学校によってそれぞれのやり方があるとは思うが，以前に比べると，小学校間の格差は小さくなったと思う。